

「市政改革意見箱」へのご意見について

1 集計期間

平成 24 年 5 月 30 日～7 月 20 日

2 集計方法

電子メール、ファックス、電子申請システム、送付、持参

3 集計結果

受付通数 1,988 通 (意見総数 2,394 件)

4 10 件以上ご意見のあった項目及び件数 (別添：意見概要)

生涯学習センター	1,074
市営交通料金福祉措置 (敬老パス)	225
1 歳児保育特別対策費	129
男女共同参画センター管理運営	98
コミュニティ系バス運営費補助	78
上下水道料金福祉措置	55
市民交流センター管理運営及び改修整備	48
民間社会福祉施設職員給与改善費	47
保育料の軽減	42
放課後事業	40
地域福祉活動支援	37
大阪人権博物館運営費補助	28
(社)大阪フィルハーモニー協会運営補助金及び(財)文楽協会運営補助金	26
音楽団事業及び音楽堂貸し出し事業	18
国民健康保険事業会計繰出金	18
スポーツセンター管理運営	16
公立幼稚園・保育所の民営化	14
大阪バイオサイエンス研究所	12
新婚世帯向け家賃補助	11
住まい情報センター他	10
学校給食協会交付金	10

(計 2,036 件 意見総数の 85%)

◆10件以上ご意見のあった項目に係る意見概要

事 項	賛否	意 見 概 要
生涯学習センター	反対	<ul style="list-style-type: none"> ・市民の学びの意欲を支える公共の施設は必要である。 ・学校や老人施設等への音楽活動をしているが、支障が生じる。 ・外国人のための漢字教室を開催しているが、外国人の日本社会への参加の一助になっており、日本社会にとっても有益なことである。民間施設では対応できない。 ・年金生活者には、学習・コミュニケーション・老化防止の場として有用である。 ・生きがいになっている。民間では高い月謝になりやっつけいけない。 ・同じ講座で知り合った人と友達になり、見知らぬ者どうしのつながりの場となっている。 ・民間のカルチャーセンターとは学習機会の提供の仕方が異なり、一緒にするのは乱暴である。 ・生涯学習センターは志を同じくする者の自主的な学習の場であり、カルチャーセンターとは違う。市民の学習の機会を補助するのが大阪市の役割である。 ・使用料も安く、交通の至便性の高いところにあり、非常に便利である。様々な活動に利用しており、なくなると困る。 ・全部残すのは難しくても、総合生涯学習センターだけは残して。 ・聴覚障がい者のための大切な学習の場になっている。 ・会議室の予約にあたっては、毎回相当数の希望者があり、抽選で決めているような状況である。統廃合するのではなく、増設するべき。 ・いままで実施してきた生涯学習への支援による「市民力」の育成を否定するもの。 ・稼働率が高いのになぜ廃止するのか。納税者の意見が聞き入れられないのか。 ・立地面及び金額面で、民間では対処できない。 ・削減ありきではなく、今ある施設の有効活用を考えるべき。
	賛成	<ul style="list-style-type: none"> ・廃止に賛成。廃止してから新しい知恵が生れてくる。 ・補助金なしでも運営できるよう、利用料金を高くしたり、従業員数を減らすなどの運営努力をするべき。 ・わかりにくい場所にあり利用しにくい。地域にある会館や区民センターを使いやすくするべき。

<p>市営交通料金福祉措置 (敬老パス)</p>	<p>反対</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・お年寄りが、ひきこもらずに元気でいられるのは、敬老パスのおかげである。 ・どこへも出歩けない高齢者が増え、介護給付費が更に膨らむ。 ・公約違反である。 ・高齢者が外に出て、まちが潤う。 ・通院に使っており、通院できなくなる。 ・日常の買い物に行けなくなる。 ・廃止には反対。3割ぐらいなら何とか負担できそう。 ・受給者資格を65歳以上にすべき。 ・低所得者には、申請料だけの負担にすべき。 ・乗車料金の自己負担は従前通り無料にするべき。 ・高齢者の生活と健康を守り、多くの市民との「きずな」を深める重要な役割がある。 ・地下鉄の黒字を敬老パスにまわせばよい。
	<p>賛成</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・市民もそれなりの負担増は必要。 ・一定額の自己負担や上限額の設定はやむを得ない。 ・支給年齢を75歳以上に引き上げては。
<p>1歳児保育特別対策費</p>	<p>反対</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・1歳児には細やかな配慮が必要である。 ・乳幼児の命に関わる。安全の確保ができない。 ・保育の質の低下につながる。 ・まだ引っ掻きや噛みつきがみられる時期であり、細心の注意が必要。 ・大阪市児童福祉施設最低基準条例に対する附帯決議を尊重するべき。 ・現状でも、保育士の数は不十分である。
<p>男女共同参画センター管 理運営</p>	<p>反対</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・女性のための総合相談は、女性施策の推進に重要な役割を担っている。 ・区役所では、プライバシー等の問題があり、安心して相談できない。 ・教育や雇用の分野で男女平等を実現していくことは、経済成長につながるものであり、そのためにも是非必要な施設である。 ・民間に委ねるなら、利用に支障がないような料金の設定をするべきである。 ・人生の糧となる講座に出会えたのはクレオだけ、廃止しないで。 ・楽しみの場を奪わないで。 ・なかなか予約が取れない状況で、統廃合するのはおかしい。 ・民間に移行すると、利用料金が高額になり、市民の文化的な活動ができなくなってしまう。 ・市民だけではなく、府民にも必要な施設。

	賛成	<ul style="list-style-type: none"> ・廃止賛成。 ・女性が声を発する場が必要であり、その場には適材を配置する必要があるが、区役所ごとでよい。
コミュニティ系バス運営費補助	反対	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者の移動手段がなくなる。 ・通院や買い物に利用。 ・赤バスは老人の行動範囲を広げ、健康増進につながるにより、国民健康保険の利用も減る。 ・路線を改善・拡充し、継続すべき。 ・高齢者や障がい者にとって「足」となっている。
	賛成	<ul style="list-style-type: none"> ・全面廃止に賛成。小型化して便数増やすべき。
上下水道料金福祉措置	反対	<ul style="list-style-type: none"> ・生活が圧迫される。 ・重度障がい者の減免を廃止するのは許されない。生活できなくなる。 ・水道料金の最低限度数量を引き下げるべき。 ・全廃は反対。所得に一定の制限をかけるべき。 ・年金生活者には必要な措置である。
市民交流センター管理運営及び改修整備	反対	<ul style="list-style-type: none"> ・人権教育にとって貴重な施設。 ・年金生活者には、学習・コミュニケーション・老化防止の場として有用である。 ・地域の住民にとっては必要不可欠なものである。 ・一人暮らしの高齢者の生きがいの場になっている。 ・勉強会の開催など、子どもの交流の場になっている。 ・十分な議論がなされないまま、局の意向に関わらずPTの意向のみで結論付けられている。説明責任の放棄である。
	賛成	<ul style="list-style-type: none"> ・次世代につけを回さないためにも廃止に賛成 ・賛成の声は表に出にくいですが、是非見直してください。
民間社会福祉施設職員給与改善費	反対	<ul style="list-style-type: none"> ・職員の確保と定着に大きな役割を果たしている。 ・ベテランの保育士を雇えなくなる。若い保育士の育成のためにもベテラン保育師は必要である。 ・給与の低下につながり、保育士不足に拍車をかけることになる。
保育料の軽減	反対	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもを安心して預け、安心して働ける環境づくりのためには、保育料の値上げは反対。 ・子ども施策へ負担を課すのは、大阪市の衰退につながる。 ・低所得者層の負担がさらに高くなる。

放課後事業	反対	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの家事業は、いきいき放課後事業や学童保育事と異なる重要な役割を果たしている。家庭や学校に行き場のない要支援児童の「最後の砦」になっている。 ・子どもの家事業の廃止は、子どもの遊ぶ権利や生存権等を奪うものである。 ・子どもの家事業の廃止は、大阪市の次世代育成支援計画(後期計画)にも反する。 ・学童指導員は親代わりになっているので止めないで。 ・子どもの家は、自然体験、高齢者・乳幼児との交流など貴重な経験ができる場であり、なくさないで。 ・子どもの家があるからこそ安心して働きに出ることができる。
地域福祉活動支援	反対	<p>(地域福祉活動推進事業)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一人暮らしの高齢者など要援護者の支援に役立っており、地域と行政をつなぐ機能を果たしている。 ・今でもボランティアに近い形でやっているのに、ますます担い手がいなくなる。 ・ネットワーク推進員の廃止は、長年築いてきた地域福祉を根底から覆すものである。 <p>(食事サービス事業(ふれあい型))</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ふれあい喫茶では人は集まらない。食事だからこそ集まる。 ・安否確認に役立っている。 ・集いの場になっており、楽しみにしている。 ・引きこもり防止と仲間づくりに役立っている。 <p>(老人憩いの家)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高齢者の楽しみを奪わないで。 ・コミュニティの形成に役立っている。
	賛成	<ul style="list-style-type: none"> ・老人憩いの家の補助の廃止に賛成。
大阪人権博物館運営費補助	反対	<ul style="list-style-type: none"> ・日本、世界に誇れる施設である。 ・人権を学べる、人権教育のための貴重な施設。 ・差別の歴史を教える施設として是非とも必要である。 ・人権を学べる施設がなくなると明るい未来はない。 ・大阪市は人権啓発をしながら施設を廃止するのはおかしい。 ・社会教育・学校教育における人権啓発を行う貴重な施設である。 ・6月2日に2012年度限りで補助金の廃止を打ち出したが、パブコメ意見を集約中であるのにおかしい。意見をきちんと見たのか。

<p>(社)大阪フィルハーモニー協会運営補助金及び (財)文楽協会運営補助金</p>	<p>反対</p>	<p>(大阪フィルハーモニー協会運営補助金)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一度文化を壊すと戻すのに相当な時間がかかる。 ・感性豊かな都市格をつくるためにも必要。 <p>(文楽協会運営補助金)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大阪発祥の伝統芸能を守って欲しい。 ・文楽は日本だけでなく、世界の宝である。
<p>音楽団事業及び音楽堂貸し出し事業</p>	<p>反対</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・廃止ではなく、時間の猶予を与えながら緩やかな経営の改善を求めていくべき。 ・音楽を通じて心豊かな社会の形成につながる。 ・安く音楽に接する機会がなくなる。
	<p>賛成</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・廃止賛成。
<p>国民健康保険事業会計繰出金</p>	<p>反対</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・国民健康保険料が払えなくなる人が増え、かえって生活保護が増えるのではないかな。
<p>スポーツセンター管理運営</p>	<p>反対</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・健康維持に役立っており、通えなくなるとかえって医療費の増を招く。 ・リハビリの一環として利用しているが、統合されて遠くなると通えなくなる。 ・生涯スポーツの場を奪うことになる。
	<p>賛成</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・統合賛成。
<p>公立幼稚園・保育所の民営化</p>	<p>反対</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・公立幼稚園では、私学幼稚園で体験できないことを学べる。 ・公立幼稚園としての存在意義はあり、全て民営化・廃止すべきではない。 ・民営化すると教育レベルが下がる。
<p>大阪バイオサイエンス研究所</p>	<p>反対</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・世界的にも有数の非常に高い業績を誇る施設である。 ・科学に興味を持つ高校生や若者の夢を奪い、科学文化の喪失につながる。 ・筋ジストロフィー治療の研究で成果をあげており、是非存続を。 ・生産性を高めるための競争的な環境を維持しながら経営の努力を続けている。
<p>新婚世帯向け家賃補助</p>	<p>反対</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・大阪市に若い人、こどもはいらぬのか。高齢者ばかりの大阪市に未来はない。 ・収入が減っており、さらに新婚世帯向け家賃補助がなくなると、結婚できない人が増え、こどもが減る。 ・若い世代の大阪市転入の呼び水として大きな役割を果たしている。 ・大変助かっている。 ・若い人が住めないまちは、活気がなくなり、子どもも少なくなる。若い世代を守ってこそ、未来は開ける。 ・廃止ではなく、減額や年数の短縮なども考えるべき。

	賛成	<ul style="list-style-type: none"> ・ 必要ない。
住まい情報センター他	反対	<ul style="list-style-type: none"> ・ 資料が充実しており、窓口での相談も親切であった。マイホーム取得のビギナーにとって、ありがたい施設。 ・ 住まいのミュージアムは、昔の暮らしの伝承が難しくなった現代に、生活の基礎を伝える重要な施設であり、子ども達にとって必要なすばらしい文化施設である。 ・ 続けてほしい。 ・ 住宅に関するあらゆる相談ができて、様々な情報を得ることができる施設であり、区役所へ移管されても同じサービスが受けられるのか。 ・ 後世の人々の暮らし・住まいを考え、歴史・財産を大切にし、地域固有のよさを活かしたまちづくりにおける重要な機能・役割を果たしている。 ・ 住まい情報センターでは、大阪に関する興味深い様々な展示・催しが実施されており、それにはボランティアとして多数の一般市民が参加している。市政改革プランがめざす「地域社会の将来像」を実現するためにふさわしい施設である。
学校給食協会交付金	反対	<ul style="list-style-type: none"> ・ これ以上負担が増えると大変。 ・ 給食も教育の一環であり、値上げに反対。 ・ 無償で給食が食べられるようにすべき。